

ひと、くらし、  
みらいのために

# せみね監督署だより

発行 瀬峰労働基準監督署（栗原市瀬峰下田50-8 電話0228-38-3131）

## 労働災害は更に増加傾向

▶令和3年の労働災害による被災者数（休業4日以上。以下同じ）は、1月～6月までの間で82人です。▶この被災者数は、**令和2年同期の32人を50人上回る156.3%の増加率**です。▶この増加率は、5月までの131.3%を上回り、瀬峰労働基準監督署の労働災害の増加傾向は歯止めがかかっていない状況です。▶業種別では、**社会福祉施設（+450%）、道路貨物運送業（+333.3%）、土木工事業（+300.0%）、製造業（+266.7%）**において**顕著な増加**がみられます。▶経営トップは、安全衛生管理の基本方針を改めて表明するなど、自らの安全に対する「やる気」を組織のメンバーに再度周知し、メンバーの「やる気」を高めた全員参加型の安全衛生活動を実現するとともに、その維持・強化を図ってください。

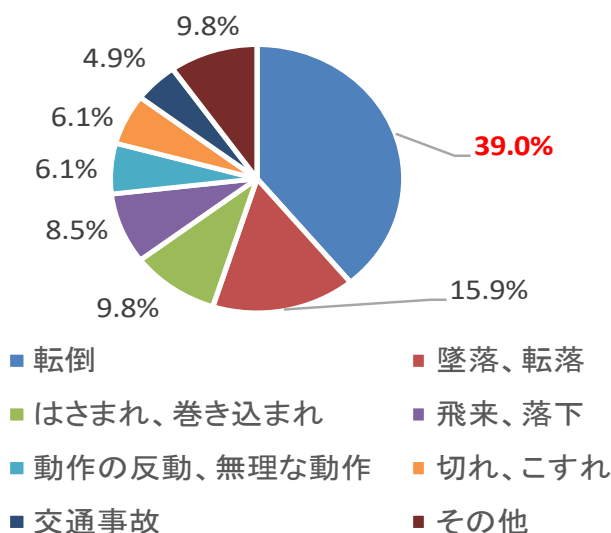
労働災害発生状況（令和3年6月末現在）

	管内（登米・栗原）被災者数		県内被災者数	
	令和3年	令和2年	令和3年	令和2年
休業4日以上	<b>82</b>	32	1323	933
死亡	<b>1</b>	1	5	6

## 転倒災害が最多

▶令和3年1月～6月の労働災害を事故の型別にみますと、転倒による災害が32人（39.0%）と最も高い割合を占めています。▶転倒災害の防止に向け、瀬峰労働基準監督署では「STOP！転倒災害プロジェクト」を推進しています。▶転倒災害を防止するため、その危険について職場をチェックするとともに、必要な改善を図ってください。

事故の型別労働災害発生状況



具体的な対策は  
こちらをチェッ  
ク！



# 熱中症の予防

## 現場管理者の声

▶先般、職場の現場管理者の方から「水分・塩分補給のためスポーツドリンクを支給し、声掛けもしているのですが、みんながなかなか飲んでくれないのです」との声が寄せられました。▶瀬峰労働基準監督署では【[のどが渴いていなくても定期的に水分・塩分を取りましょう](#)】といった熱中症の予防を推進しています。▶瀬峰労働基準監督署が【[のどが渴いていなくても定期的に水分・塩分を取りましょう](#)】などを推進しているのは、①「人間は、体液の調節に関して、心臓や頸動脈で血液量の増減を感知し、尿の産生量と口渇感の強さを調節しています。しかし、人間は、脱水状態が軽いときは口渇感を感じる事ができないとされています。」▶また、②「人間は、発汗等により体内のナトリウムの量が減っても、脱水状態が軽く、血液中のナトリウムイオン (Na+) の濃度が変化していないときは、水分及びナトリウムの不足を感じる事ができないとされています。」▶③「実際に、運動や作業の後に、口渇感に任せて水分を摂取させていても、脱水状態が完全には回復しないことがわかっています。このような場合であっても、水分やナトリウムの調節よりも体温の調節のほうが優先されるので、必要な発汗は続くこととなります。」ということによります。▶さきほどの現場管理者の方と同じような思いをお持ちの方は、普段の水分・塩分の摂取の呼びかけに加え、上記のような根拠を組織のメンバーに併せて伝えるなど、自らの指示に説得性を持たせてみてはいかがでしょうか。

▶厚生労働省ホームページの「職場における熱中症予防情報」のサイトでは、各種対策情報が掲載され、オンラインで予防対策を学ぶことができます。是非ともご活用ください。

「職場における熱中症予防情報」はこちらをチェック！



## 「SafeworK 向上宣言」の取組

▶瀬峰労働基準監督署では、すべての業種の会社を対象に「[SafeworK 向上宣言](#)」を推進しています。

▶取組の主なステップは、①宣言内容を事業場内外に周知⇒②自主点検を実施⇒③労働局あて登録シートにより申請⇒④労働局はホームページに掲載し、関係団体も同様に周知などを実施です。▶登録後は、ハローワークの求人票に「[SafeworK 向上宣言](#)」事業場であることを記載できます。

具体的内容、登録方法などはこちら

